

製品名: ALDH7A1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87727**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:20-1:50,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:59 kDa; Observed MW:59 kDa

抗原情報

遺伝子名	ALDH7A1
別名	EPD; PDE; ATQ1
遺伝子ID	501, 110695
SwissProt ID	P49419, Q9DBF1
免疫原	ヒトALDH7A1の合成ペプチド

背景

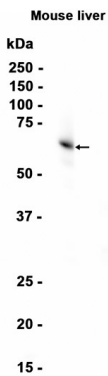
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、アルデヒド脱水素酵素遺伝子ファミリーのサブファミリー 7に属します。これらの

酵素は、アルコール代謝および脂質過酸化によって生成されるアルデヒドの解毒において主要な役割を果たすと考えられています。この特定のメンバーは、以前報告されたグリーンピース由来のタンパク質、26g エンドウ膨圧タンパク質と相同性を有しています。また、ミトコンドリアマトリックスで起こることが知られているリジン分解にも関与しています。最近の報告によると、このタンパク質は細胞質とミトコンドリアの両方に存在し、これら2つの形態はおそらく代替翻訳開始部位の利用によって生じていると考えられます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする別のバリエーションも見つかっています。この遺伝子の変異は、ピリドキシン依存性てんかんと関連しています。また、関連する偽遺伝子もいくつか同定されています。[RefSeq 提供、2011年1月]

研究分野

-

画像データ



ALDH7A1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス肝臓組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。